



はだしで学ぼう!

校庭芝生

2013
4月

表紙
の
学校

狛江市立狛江第五小学校

子供たちが生き生き学ぶ芝生の校庭

「芝生の感触が心地良いようで、児童たちは皆、リラックスして、伸び伸びと活動していますよ。」と、坂本 互 副校長先生。

芝生の上での体育の授業は、滑って転んでも、ほとんどけがをすることがないので、思い切り体を動かし、積極的にチャレンジする姿勢が身に付きます。

低学年の生活科の授業では、芝生の上で

寝転んだり腹ばいになったりしてアサガオ等の観察やスケッチをします。友達と協力し合う集団活動も、気持ちのよい芝生の上では一層楽しめるようです。

五小の芝生は、子供たちを育てる大切な学びの場です。

- ①528名
(平成25年2月現在)
- ②1,030㎡(4,350㎡)
- ③平成21年7月

「校庭芝生の親方・匠」が活躍している学校です。

親方 **川越 洋子**さん
[狛江第五小学校グリーンプロジェクト] 顧問

匠 **宇賀 育男**さん
[狛江第五小学校グリーンプロジェクト] 代表

校庭芝生の親方・匠とは…

都内の芝生化校で、芝生の維持管理に関して体制の構築や取りまとめ(親方)、技術的な指導(匠)において多大な貢献をされたとして東京都教育委員会から認証を受けた方々です。親方・匠が活躍している学校には左のフリップを掲載します。

芝生を生かした教育活動特集号

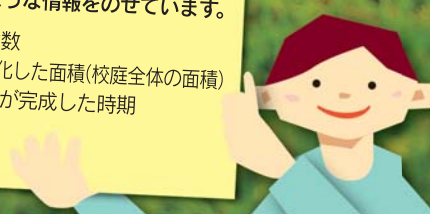
芝生の校庭だからこそ、こんな授業ができる! 芝生化校の1年をご紹介します。

INDEX 芝生化校の1年

- ～芝生を生かした教育活動～
- 芝生で授業 ～虫さきの会～
- 第3回 芝生車座集會
- 「校庭芝生化地域連携事業の取組」紹介

各コーナーにあるフリップは次のような情報をのせています。

- ①児童数
- ②芝生化した面積(校庭全体の面積)
- ③芝生が完成した時期



芝生で授業!



2012年
10月3日

むしはかせになろう! ~虫ききの会~

in 杉並区立和泉小学校

秋になると、芝生の校庭は虫たちの声でいっぱいです。

身近な自然に目を向け、親しみを持ってもらうため、杉並区立和泉小学校の2年生の児童に向けて、東京都職員による出張授業を開催しました。

①358名
(平成25年2月現在)
②2,575㎡(5,471㎡)
③平成14年3月

1 秋に音を出す虫に関するクイズ

「この虫は、どんな音を出すのかな?」
「足の本数は何本あるかな?」
「どんな場所に住んでいると思う?」
先生からの質問に、みんな一生懸命考えて、進んで元気に答えてくれました。



2 夜の和泉小学校の校庭で録音された虫の声を聞きます。

みんなが下校した後の校庭では、様々な虫たちの音色でいっぱい!
和泉小の芝生の校庭にやってくる虫(アオマツムシ・カナタタキ・ツツシサセコオロギ・マダラスズ)について、虫の声を聞きました。



3 虫を観察してみよう!

最後に、秋の鳴く虫を実際に観察しました。
スズムシ・マツムシ・コオロギ・クツワムシ等、様々な虫を間近で観察し、それぞれが出す音色を聞いてみます。子供たちは終始、興味津々でした。



そうまとしこ 相馬季子校長先生から一言

秋に音を出す虫は、身近にいるといっても、日常生活で、姿を見たり、それぞれの音を聞き分けたりする機会はなかなかありません。今回のように、色々な虫の声を聞き、実際の姿を観察することができて、子供たちにはとてもよかったと思います。

「校庭芝生の親方・匠」が活躍している学校です。
親方 佐野 篤 副校長先生
匠 はたけやま やすひこ 富山 保彦 さん
現 高井戸第二小学校教員

芝生イベントレポート



2012年
8月25日

第3回 芝生車座集会 in 練馬区立中村小学校

①843名
(平成25年2月現在)
②3,196㎡(8,000㎡)
③平成18年3月

最終回の車座集会は、練馬区立中村小学校で、芝生の維持管理や芝生の上で行うイベントの運営で活躍されている「中村小学校グリーンキーパーズ(NGK)」の皆さんに、お話を伺いました。

今回は、夏休みに親子で学校の校庭にテントを張り、1泊2日のキャンプを楽しむイベント「校庭の芝生の上でのんびりキャンプ」の中で開催させていただきました。

校庭の芝生で、お父さんが大活躍!

多くの場合、児童の父親は学校の行事や学校公開に参加する程度で、親同士のつながりや、父親と学校とのつながりは希薄になりがちです。

しかし、中村小学校では、芝生化をきっかけに、父親同士のつながりに加えて、父親と先生や、自分の子供以外の子供たちとの交流の機会が、一層広がっているようです。

「校庭でのイベントは、当然ながら野外活動です。色々な場面で力仕事が必要になってくるから、子供たちの前で、お父さんの格好いいところを存分に発揮できます。」と笑顔で語るNGKのメンバー。

校庭キャンプ当日も、テントを張ったり、アウトドアクッキングの準備をするなど、随所で活躍するお父さんたちの姿が印象的でした。

NGK全員参加で校庭芝生の維持管理

中村小学校は児童数が多いため、芝生にかかる踏圧負荷も強くなるの

で、よりよく維持するためにはきめ細やかなメンテナンスが必要でした。

そこで、平成23年度から保護者全員に維持管理への参加を呼びかけ、PTAの環境委員会を中心に、児童の学年ごとに作業日を割り当て、参加できる日に参加してもらう、などのルールを作り、実践しました。現在、芝刈りや目土作業を、4~9月は週3回、10、11月は週1回、1時間程度行っています。平成23年度は作業日33日でのべ900人、平成24年度は作業日37日でのべ1,000人の参加がありました。日曜日の作業には子供と一緒に参加する保護者も大勢います。



青々とした芝生の上にテントが並びます。



芝生の維持管理も親子そろって

芝生は地域のコミュニケーションツール

芝生の上でのイベントや維持管理を通して、保護者同士のつながりが深くなっています。

自分の子供が卒業しても、子供が好き、芝生が好き、キャンプが好きと様々な理由で維持管理作業やイベントに関わり続けることで、子育ての先輩後輩で会話する機会も生まれ、地域の中で、緩やかなネットワークが広がっています。

「校庭芝生の親方・匠」が活躍している学校です。
親方 なかわ ひとし 名川 一史 さん
[中村小学校グリーンキーパーズ]元代表
匠 さくらみ 道郎 さん
[中村小学校グリーンキーパーズ]前代表

芝生化校の1年 ~芝生を活かした

芝生を生かした毎日の授業や学校行事を通して、子供たちの学びの機会が広がります。芝生の上で体を思う存分に動かし、身近な自然を体感することで、学校生活がより一層豊かなものとなることでしょう。

それでは、芝生化校の1年間を御紹介します。

校庭でのびんびん

4月



校庭に集まる鳥たち
セキレイの仲間や、ヒヨドリが虫を食べにやってきます。

5月



暖かい気候で活発に生育する「夏芝※」が育ってきます。

※校庭では、暖地型芝草(夏芝:バミューダグラス、野芝、高麗芝など)、寒地型芝草(冬芝:ペレニアルライグラスなど)がよく用いられています。

6月

中野区立啓明小学校



Interview
はし うち よし ゆき
橋浦義之 校長先生

「うちの学校の芝生は、子供たちが使っている芝生。庭園や競技場のような、きれいで整然とした芝生である必要はないんです。」と、橋浦義之校長先生。

「児童一人一人が“芝生は自分たちの宝物”という思いをもち、みんなで育て、使っていくことで、自主性や規範意識、責任感が自然と身に付きます。」

芝生化したことによって、様々な教科で授業の工夫の幅が拡大し、児童のやる気もアップしているとのこと。



- ①293名
(平成25年2月現在)
- ②1,746㎡(5,625㎡)
- ③平成20年10月

4月



図画工作「写生」 (4~5年生)

芝生の校庭に寝転がったり座ったりして、伸び伸び描きます。

5月



運動会

徒競走や騎馬戦、組体操等の激しい競技でも、芝生化してからは当日のけが人はゼロです。



6月

昭島市立武蔵野小学校



Interview
かつ また よし こ
勝俣 佳子 副校長先生

「芝生の利用に関しては、極力制限を設けないようにしています。」と、主幹教諭の美越 英宣先生。

取材当日も、放課後活動として長なわ跳びをする子供たちが、芝生が痛まないよう、少しずつ場所をずらしながら遊んでいる様子が印象的でした。

全校児童への調査では、武蔵野小学校のよいところの第一位が、「芝生の校庭」だったとのこと。

芝生化によって、児童が進んで外で体を動かすようになり、体力テストの平均点も芝生化後に年々上がっているそうです。



- ①583名
(平成25年2月現在)
- ②3,263㎡(10,815㎡)
- ③平成22年8月

4月

楽しみながら体力を高めるため、「全校一斉体育的活動(以下“体育的活動”)」の期間を年3回設けています。授業だけでなく、中休みや児童集会に全校児童が集中して1つの種目に取り組み、体力づくりを行います。

全校的体育活動①長なわ

新学級で力を合わせて記録に挑戦します。裸足で行うので、柔らかな芝生の新芽の感触から春を実感できます。

5月

環境教育(5年生)

気温とCO₂濃度を測定します。芝生をきっかけに環境に対する関心が高まっています。












6月

生活科(1年生)

「芝生の上で虫探し」をします。

教育活動～


7月	8月	9月	10月	11月	12月
<p>梅雨の時期でも、水たまりができません。</p> 	<p>夏から秋にかけて、トンボがたくさん飛んできます。</p> 	<p>刈った芝生の量を比べてみると芝生の育つスピードは、季節によって変化することがわかります。</p> 	<p>気温が下がってくると、夏芝が休眠期間を迎えます。茶色く枯れているように見えても、根や莖は生きています。</p> 		

7月	8月	9月	10月	11月	12月
<p>生活科「夏とともだち」(1年生) 芝生の散水用スプリンクラーを使って水遊び。プール開きの前に、水に対する抵抗感が和らぎます。</p> 	<p>理科「虫をしらべよう」(3年生) 学校の周りに集まる虫を探して、観察します。校庭の芝生には、どんな虫がいるのでしょうか。</p> 	<p>運動会終了後は芝生の養生期間です。学校自慢の図書室「ぐりぐら図書館」で読書を楽しみます!</p> 	<p>芝刈り等の日常的な手入れは、6年生を中心に子供たちが行っています。</p>  	<p>全校リレー (全学年) 全校児童が、リレーの選手になって、縦割りチームで競い合います。芝生の上で思い切り走るのは気持ちいいものです。</p>	

7月	8月	9月	10月	11月	12月
<p>掃除の時間に、児童が芝刈りをします。</p> 	<p>運動会</p> <p>練習から本番まで、全て裸足で行います。</p> 	<p>食育の日 (5年生) 栄養バランスを考えて、自分でお弁当を作ります。 ※5月・9月・2月の3回実施</p> 	<p>運動会 練習から本番まで、全て裸足で行います。</p> 	<p>運動会後2週間程度の芝生の養生期間中の体育は、鉄棒等の校庭を使わない競技を行います。</p> <p>全校的体育活動②短なわ 芝生の校庭では、なわにはじかれた砂が足に当たったりすることがないので、快適に跳べると評判です。</p> 	<p>芝生を生かした体育の授業</p>  <p>芝生の前で前転の練習</p>

芝生の上で、いただきます!

芝生の前で前転の練習

1月	2月	3月
		
<p>冬になっても、スズメやハトが集まってきます。食べ物を探しているようです。</p>		

校庭芝生化のポイント

～各学校に合った形での芝生化を!～

- ★部分的な芝生化でも、低学年の児童の外遊びスペースや、児童・生徒のリラックススペースとして、十分に芝生のよさを実感できます。
- ★広範囲の芝生化でも、部分的に芝生を張らないスペースを確保しておくこと、何かと便利です。



1月	2月	3月
		
<p>雪の日は、芝生の養生シートの上に積もった真っ白な雪で雪遊びをします。</p>		
		


芝生を導入して

「芝生はみんなの宝物!」

自分たちでしっかり管理すれば、芝生を使って、今までできなかったことができるようになります!

- ★日常的な管理は児童が中心になって行うようにしています。
- ★朝会で話をすることで、「養生期間は芝生を休ませる」というルールを守ってくれるので、柵で囲う必要はありません。
- ★霜が降りることはめったにないので、養生シートは必ずしも必要ありませんが、子どもたちの責任感を育むため、1月中は1か月間あえて養生シートをかけています。朝早く来た児童がシートをしまい、夕方には校庭遊び場開放で遊んだ児童が責任をもってシートをかける習慣が自然と身に付きました。



1月	2月	3月
<p>全校的体育活動③持久走 全校児童が一斉に走っても、芝生の校庭は、砂ぼこりが立ちません。</p>		
		

芝生を導入して

「子供たちの”自慢の芝生”」

子供たち自身が、芝生のよさを分かっています。だから芝生の利用についてルールを設けなくても、自由に活動する中で、芝生を大切にしている習慣が根付いています。

芝生化してよかったこと～武蔵野小の児童へのアンケートより～

- ★砂ぼこりが立たない
→持久走の練習やレクリエーションで、全校児童が校庭を走っても大丈夫です。
- ★ふわふわした感触が気持ちいい
→外遊びに苦手意識をもっていた児童も、外で遊ぶことが多くなりました。
- ★けがをしにくい
→擦過傷等のひどいけがで保健室に来る児童が飛躍的に減少しました。



通常は室内でマットを敷いて行う前転や倒立も、走る運動や跳躍運動と組み合わせて、芝生の上で行うことができます。

(体を移動させる運動遊び 2年生)

転倒してもけがをしにくいので、後ろ向きで走る等、様々な走り方のリレーで思い切り競い合うことができます。

(リレー 3年生)

「校庭の芝生化」により、学校と地域の連携の輪が広がっています。 「校庭芝生化地域連携事業」の取組紹介 ～地域とともに子供たちを育てよう！～

「校庭芝生化地域連携事業」とは

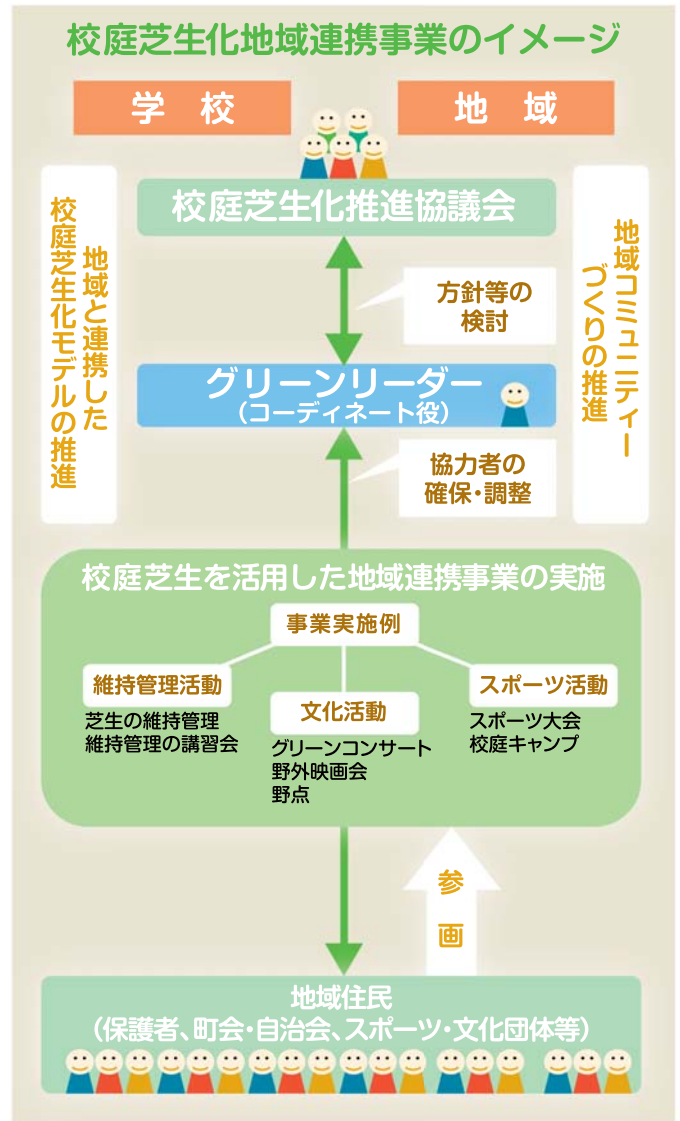
都教育委員会では、平成21年度から都内公立小・中学校を対象として、「校庭芝生化地域連携事業」の取組を開始し、地域の参画による芝生の維持管理の仕組みづくりを推進するとともに、多様な文化・スポーツ活動を通じて、子供の健全育成や地域の教育力の向上を図る活動を支援しています。

特に、その仕組みの中核として、グリーンリーダー（コーディネイト役）を配置しています。グリーンリーダーは学校と地域のパイプ役として、様々な活動の企画・運営や地域住民によるボランティアの連絡・調整などを行い、活動が効果的に、そして円滑に進むような役割を果たしていただいています。

地域ぐるみの芝生化で、子供たちへの教育効果を高めよう。

芝生化された学校では、「子供たちが今まで以上に活発に活動するようになった」、「けがが少なくなった」、「砂ぼこりが少なくなった」などの効果があげられています。子供たちの教育活動に芝生を積極的に活用していくには、学校だけでなく、保護者や地域が協力する仕組みづくりが大切です。

芝生の維持管理は必ずしも容易なものではありませんが、地域と連携し、継続的な取組を行うことにより、子供たちへの教育効果は着実に実を結んでいます。また地域の方にとっても、学校への理解が深まり、地域の拠点としての意識も深まってきています。



スラックライン(青梅市立第一小学校)



芝刈り体験(府中市立白糸台小学校)



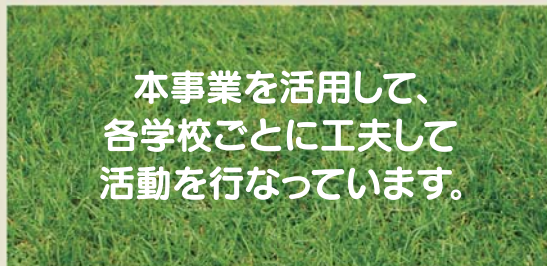
芝生でGo(にSL体験)(品川区立第一日野小学校)



動物ふれあい教室(多摩市立多摩第一小学校)



野点(杉並区立天沼小学校)



タグラグビー教室(杉並区立高井戸小学校)